

# ブロック塀の診断カルテ

申請者

## A. 基本性能の診断【基本性能値】

診断項目	基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10 ①
	10年以上、20年未満	8 ( )
	20年以上	5
高さの増積	なし	10 ②
	あり	0 ( )
使用状況	塀単独	10 ③
	土留め・外壁等を兼ねる	0 ( )
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10 ④
	塀の下に擁壁あり	5 ( )
塀の高さ	1.2m以下	15 ⑤
	1.2mを越え、2.2m以下	10 ( )
	2.2mを越える	0
塀の厚さ	15cm以上	10 ⑥
	12cm	8 ( )
	10cm	5
透かしブロック	なし	10 ⑦
	あり	5 ( )
	あり	10 ⑧
鉄筋	なし	0 ( )
	確認不能	0
	あり	10 ⑨
控え壁・控え柱	なし	5 ( )
	あり	10 ⑩
かさ木	なし	5 ( )
基本性能値(①～⑩までの評価点の合計)	A	[ ]

## B. 壁体の外観診断【外観係数】

診断項目	基準係数	評価係数
全体の傾き	なし	1 ⑪
	あり	0.7 ( )
ひび割れ	なし	1 ⑫
	あり	0.7 ( )
損傷	なし	1 ⑬
	あり	0.7 ( )
著しい汚れ	なし	1 ⑭
	あり	0.7 ( )
外観係数(⑪～⑭の最小値)	B	[ ]

## C. 壁体の耐力診断【耐力係数】

診断項目	基準係数	耐力係数
ぐらつき※1	動かない	1 C
	わずかに動く	0.8 [ ]
	大きく動く	0.5

※1 診断をする場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押ししてください。

## D. 保全状況の診断【保全係数】

診断項目	基準係数	保全係数
補強・転倒防止	あり	1.5 D
対策等の有無	なし	1 [ ]

## 診断結果の判定

1. 総合評点(Q)を求めましょう。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline A \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline B \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline C \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline D \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評点} \\ \hline (Q) \\ \hline \end{array}$$

2. 総合評点(Q)から、診断結果を判定しましょう。

安全性の判定と今後の対応		
総合評点		
$Q \geq 70$	安全である	3～5年後にまた診断してください。
$55 \leq Q < 70$	一応安全である	1年後にまた診断してください。
$40 \leq Q < 55$	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策を講じてください。
$Q < 40$	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去してください。

※ 診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。